

(主として介護支援専門員による)
アセスメントについて

「アセスメント」とは

- 指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準について（抄）

第二の3 運営に関する基準

（7） 指定居宅介護支援の基本方針及び具体的取扱方針

⑥ 課題分析の実施（抄）

課題分析とは、利用者の有する日常生活上の能力や利用者が既に提供を受けている指定居宅サービスや介護者の状況等の利用者を取り巻く環境等の評価を通じて利用者が生活の質を維持・向上させていく上で生じている問題点を明らかにし、利用者が自立した日常生活を営むことができるように支援する上で解決すべき課題を把握することであり、利用者の生活全般についてその状態を十分把握することが重要である。

なお、当該課題分析は、介護支援専門員の個人的な考え方や手法のみによって行われてはならず、利用者の課題を客観的に抽出するための手法として合理的な物と認められる適切な方法を用いなければならないものであるが、この課題分析の方法については、別途通知するところによるものである。

「課題分析標準項目」とは

- 介護サービス計画書の様式及び課題分析標準項目の提示について（抄）

課題分析標準項目について（別紙4）

課題分析の方式については、「指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準について」（以下、「基準解釈通知」）第二の3（運営に関する基準）の（7）の⑥において、別途通知するところによるものとしているところであるが、当該「基準解釈通知」の趣旨に基づき、個別の課題分析手法について「本標準課題分析項目」を具備することをもって、それに代えることとするものである。

- 課題分析標準項目は、以下の通り「基本情報に関する項目」と「課題分析（アセスメント）に関する項目」で構成される
 - 基本情報に関する項目
 - 基本情報（受付、利用者等基本情報）、生活状況、利用者の被保険者情報、現在利用しているサービスの状況、等
 - 課題分析（アセスメント）に関する項目
 - 健康状態、ADL、IADL、認知、等

課題分析標準項目のうち「アセスメント」に関する項目

項目	記載する内容	項目	記載する内容
健康状態	利用者の健康状態（既往歴、主傷病、症状、痛み等）	じょく瘡・皮膚の問題	じょく瘡の程度、皮膚の清潔状況等
ADL	ADL（寝返り、起きあがり、移乗、歩行、着衣、入浴、排泄等）	口腔衛生	歯・口腔内の状態や口腔衛生
IADL	IADL（調理、掃除、買物、金銭管理、服薬状況等）	食事摂取	食事摂取（栄養、食事回数、水分量等）
認知	日常の意思決定を行うための認知能力の程度	問題行動	問題行動（暴言暴行、徘徊、介護の抵抗、収集癖、火の後始末、不潔行為、異食行動等）
コミュニケーション能力	医師の伝達、視力、聴力などのコミュニケーション能力	介護力	利用者の介護力（介護者の有無、介護者の介護意思、介護負担、主な介護者に関する情報等）
社会との関わり	社会との関わり（社会的活動への参加意欲、社会との関わりの変化、喪失感や孤独感等）	居住環境	住宅改修の必要性、危険箇所等の現在の居住環境
排尿・排便	失禁の状況、排尿排泄後の後始末、コントロール方法、頻度など	特別な状況	特別な状況（虐待、ターミナルケア等）

(4). 介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業

3. 調査結果概要

A. アセスメント様式等の実態調査（施設・事業所調査）

【主に使用しているアセスメント様式等】

- 施設サービス（介護老人保健施設、介護老人福祉施設）では包括的自立支援プログラム方式を使用している施設が多く、それぞれ29.8%、49.7%であった。
- 居宅介護支援事業所では居宅サービス計画ガイドライン方式を使用している事業所が37.7%と最も多かった。
- 介護老人保健施設ではR4を使用している施設が20.2%であった。
- 介護老人保健施設の22.5%、介護老人福祉施設の26.5%、居宅介護支援事業所の18.9%では独自様式を使用していた。

※施設票・事業所票 問5(2)主に使用しているアセスメント様式と施設種別のクロス集計

図表1 【施設・事業所票】主に使用しているアセスメント様式

	インターライ方式	MDS方式・MDS-HC方式	居宅サービス計画ガイドライン方式	ケアマネジメント実践記録様式	TAI方式・TAI-HC方式	日本訪問看護振興財団方式	日本介護福祉士会方式	包括的自立支援プログラム方式	R4	独自様式	その他	名称不明	合計
介護老人保健施設	6 0.6%	126 12.1%	16 1.5%	13 1.2%	1 0.1%	0 0.0%	3 0.3%	311 29.8%	211 20.2%	235 22.5%	88 8.4%	33 3.2%	1043 100.0%
介護老人福祉施設	2 0.2%	59 5.6%	26 2.5%	14 1.3%	2 0.2%	1 0.1%	4 0.4%	520 49.7%	1 0.1%	277 26.5%	95 9.1%	45 4.3%	1046 100.0%
居宅介護支援事業所	5 0.5%	154 16.1%	362 37.7%	7 0.7%	21 2.2%	4 0.4%	15 1.6%	43 4.5%	3 0.3%	181 18.9%	117 12.2%	47 4.9%	959 100.0%
合計	13 0.4%	339 11.1%	404 13.3%	34 1.1%	24 0.8%	5 0.2%	22 0.7%	874 28.7%	215 7.1%	693 22.7%	300 9.8%	125 4.1%	3048 100.0%

※各サービス別に割合の高い上位2様式を橙色で表示している。

(7). 介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業

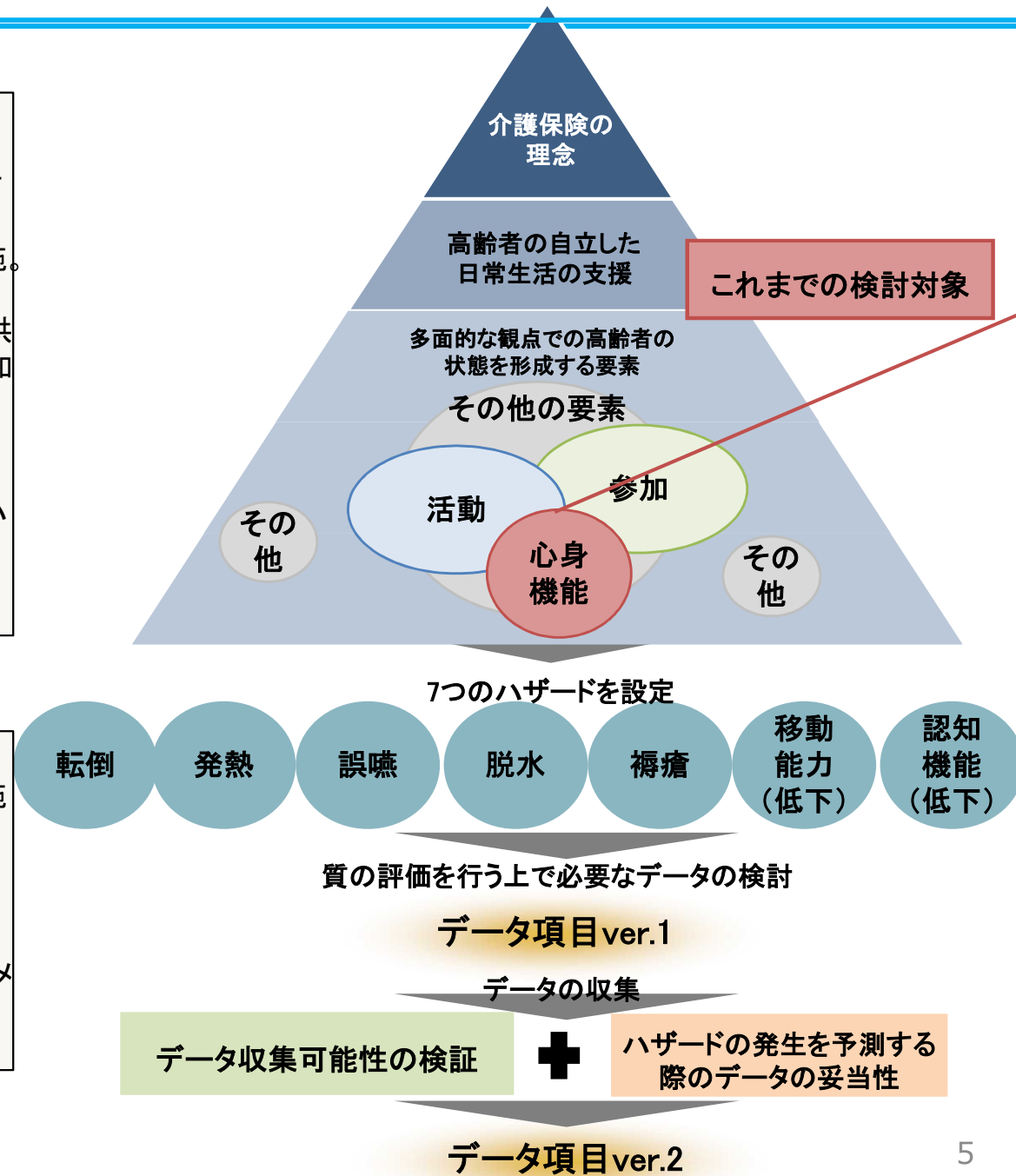
3. これまでの検討経緯

平成26年度

- ① 質の評価を行う上での考え方の整理を踏まえ、高齢者に発生しうる自立支援の障害となるリスクを適切に把握するため、関連するハザードを特定した上で、それに起因するリスクを予測するための高齢者の状態把握を行うために必要なデータの検討を実施（データ項目案の作成）
- ② ハザードの特定にあたっては、先行研究を参考に、サービス提供の現場で高齢者の自立支援の障害リスクになりやすく、それに加えて、施設・居宅の双方で高齢者に高頻度で起こりうる「転倒」「発熱」「誤嚥」「脱水」「褥瘡」「移動能力の低下」「認知機能の低下」を検討の対象とした。
- ③ ハザードと捉えた場合のリスク把握に資するデータ項目は、各ハザード領域の既存文献の情報収集及びエキスパートインタビューにより作成（データ項目ver.1の作成）。

平成27年度

- ① 平成26年度事業で作成したデータ項目ver.1を、介護老人保健施設・居宅介護支援事業所から収集し、データ収集可能性及びハザードの発生を予測する際のデータの妥当性の検証（発生率、相対危険度の算出）を実施。
- ② ①に加え、軽度者の状態を把握するための新規項目の検討、データ収集のタイミングの検討を踏まえた表現の見直し（アセスメント→モニタリング）を行った上でデータ項目ver.2を作成。



(7). 介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業

8. まとめ

①データ項目ver.2に基づく質の評価の検討

- 平成27年度事業において作成したデータ項目ver.2を、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、居宅介護支援事業所から収集し、「データ収集可能性」「ハザードの発生を予測する際のデータの妥当性」「ベンチマークの可能性」の検証を行った。
- 「ハザードの発生を予測する際のデータの妥当性」の観点からは、対象とした7つのハザードのうち、「転倒」「発熱」「誤嚥性肺炎」「脱水」「褥瘡」について、発生率・相対危険度を算出し、各ハザードの既往のある群とない群で、2か月後のハザードの発生状況を確認したところ、比較的高い差が見られた。また、いくつかの項目で各ハザードの既往以外の項目においても比較的高い差が見られた。この結果、データ項目ver.2は5つのハザードの発生を予測する項目として妥当性を確保していることがいずれのサービスにおいても確認された。

②プロセス管理の検討

- サービス提供主体（事業者）とサービス提供における2つのPDCAサイクルを念頭に、介護サービスの現場におけるマネジメントシステムを把握・評価するために必要な視点の整理を行うため、ISO9001を取得している（あるいは取得していた）介護老人保健施設及び介護老人福祉施設を対象として試行的なヒアリング調査を実施した。
- ISOを取得施設においては、法人の理念に基づく文書システムとそれを維持・管理するための体制が構築されており、その結果として本事業で念頭においているハザード予防のための対策が運用、また改善されるための仕組みがあることが確認された。またISOといったマネジメントシステムがあることにより、介護サービスの底上げにつながる様々な効果が確認された。
- 試行的なヒアリング調査の結果、介護サービスの提供主体が良いパフォーマンスをしたか否かは、「サービス提供主体におけるPDCA」「サービス提供（者）におけるPDCA」の仕組みがあることを前提に、その上で利用者の状態がどのように変化したかを捉える必要があることが示唆された。

①②の結果を踏まえ、介護保険制度におけるサービスの質の評価の構築にあたっては、「利用者の状態把握のためのデータ項目の特定」と「プロセス管理の視点の整理（サービス提供主体向けマネジメントシステムの構築）」の両面での検討が引き続き必要になることが示唆された。

(4). 介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業

B. アセスメント様式等の互換性調査(利用者調査) (1) 調査方法

○データ項目ver.2の項目は以下の通りである。

図表 4 データ項目ver.2(利用者調査票から抜粋)

問2. 利用者の状態に関する情報 記載日時点における状況				
(1) ADLの状況	入浴	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない	
	排泄	排尿	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない
		排便	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない
	食事摂取	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない	
	更衣	上衣	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない
		下衣	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない
	個人衛生(洗顔・整髪・爪切り)	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない	
(2) 基本動作	寝返り	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない	
	座位の保持	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない	
	座位での乗り移り	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない	
	立位の保持	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない	
(3) 排泄の状況	尿失禁	<input type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 対象外	
	便失禁	<input type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 対象外	
	パルーンカテーテルの使用	<input type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし	
(4) 食事の状況	食事の回数	回		
	食事量の問題	<input type="radio"/> 問題あり ありの場合→ <input type="radio"/> 過食 <input type="radio"/> 小食 <input type="radio"/> その他 <input type="radio"/> 問題なし ()		
(5) 視力の状況	<input type="radio"/> 問題あり <input type="radio"/> 問題なし			
(6) 薬の状況	服薬状況	<input type="radio"/> 薬を飲んでいる <input type="radio"/> 薬を飲んでいない <input type="radio"/> 不明		
	飲んでいる場合の薬の種類	<input type="checkbox"/> 抗生物質	<input type="checkbox"/> 睡眠薬	
		<input type="checkbox"/> ステロイド剤	<input type="checkbox"/> その他	
		<input type="checkbox"/> 抗がん剤	→具体的な薬の種類を記載してください	
		<input type="checkbox"/> 向精神剤	()	
飲んでいる場合の薬の種類数	種類			
(7) 歯の状態	義歯の有無	<input type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし	
	歯磨きの実施状況 ※義歯の場合は、手入れを自分でやっているか否かをご記入ください。	<input type="radio"/> 自分でやっている	<input type="radio"/> 自分で行っていない	
(8) 過去3か月間の入院の有無	<input type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし		
(9) 過去3か月間の在宅復帰の有無	<input type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし		
(10) 過去3か月間の骨折の有無	<input type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし		
(11) 過去3か月以内に転倒をしましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明	
(12) 過去3か月以内に37.5度以上の発熱がありましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明	
(13) 過去3か月以内に誤嚥性肺炎の既往がありますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明	
(14) (介護に注意が必要な)嚥下機能の低下がありますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明	
(15) (介護に注意が必要な)摂食困難な状況がありますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明	
(16) 過去3か月以内に脱水状態になったことはありますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明	
(17) 過去3か月以内に褥瘡の既往がありますか	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明	

(18) 見当識	自分の名前がわかりますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	その場にいる人がだれかわかりますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	どこにいるかわかりますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
(19) コミュニケーション	年月日がわかりますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	相手が話していることを理解していますか。	<input type="radio"/> できる	<input type="radio"/> できない	<input type="radio"/> 不明
	周囲の人(友人・知人やスタッフ等)と簡単なあいさつや会話はできますか。	<input type="radio"/> できる	<input type="radio"/> できない	<input type="radio"/> 不明
	簡単な文章を読んで理解していますか。	<input type="radio"/> できる	<input type="radio"/> できない	<input type="radio"/> 不明
(20) 認知機能	周囲の人(友人・知人やスタッフ等)と継続的にコミュニケーションが取れていますか。	<input type="radio"/> できる	<input type="radio"/> できない	<input type="radio"/> 不明
	意識障害がありますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	長期記憶は保たれていますか。	<input type="radio"/> 保てる	<input type="radio"/> 保てない	<input type="radio"/> 不明
	簡単な計算はできますか。	<input type="radio"/> できる	<input type="radio"/> できない	<input type="radio"/> 不明
(21) 周辺症状	時間管理はできますか。	<input type="radio"/> できる	<input type="radio"/> できない	<input type="radio"/> 不明
	暴言・暴行はありますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	昼夜逆転はありますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
(22) 歩行・移動	介護に対する抵抗はありますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	不適切な場所での排尿はありますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	屋内(施設や自宅内で居室から別の部屋へ)の移動をしていますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	安定した歩行をおこなっていますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	階段昇降をおこなっていますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
※介助せずに行っているかをご記入ください。	施設や自宅から外出していますか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
	公共交通機関を利用して外出をおこなっていますか。※自家用車での移動含む。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	<input type="radio"/> 不明
移動用具の使用状況	<input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> 歩行器 <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> その他 →具体的な用具の名称を記載してください ()	<input type="checkbox"/> 移動に器具は用いていない <input type="checkbox"/> 不明		

(4). 介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業

B. アセスメント様式等の互換性調査(利用者調査) (1) 調査方法

- 施設・事業所調査の結果から、使用している施設・事業所が比較的多いアセスメント様式等(MDS方式・MDS-HC方式、居宅サービス計画ガイドライン方式、包括的自立支援プログラム方式、R4)を対象として、データ項目ver.2の回答結果との比較を実施した。
- データ項目ver.2の各項目に対する互換性の検証を行うアセスメント項目として、データ項目ver.1とアセスメント項目の対応表※(平成27年度調査結果)において整理されている項目については「完全一致」または「部分一致(紐付け可)」の項目とし、データ項目ver.2において追加された新規項目については新たに対応する項目を検討した。

※包括的自立支援プログラム方式のうち、データ項目ver.2と対応する項目については居宅サービス計画ガイドライン方式と同一の項目であるため、ここでは居宅サービス計画ガイドライン方式の整理結果に基づいて読み替えを行っている。

図表3 平成27年度調査結果(抜粋)

データ項目ver.1(抜粋)		1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
		インターライ方式(居宅版)	インターライ方式(施設版)	MDS-HC2.0方式	居宅サービス計画ガイドライン方式	日本訪問看護振興財団方式	日本介護福祉士会方式	ケアマネジメント実践記録様式	TAI方式	TAI-HC方式	R4(通所)	R4(入所)	
情報 (1) ア セ ス メ ン ト	(2)基本動作	寝返り	×	×	×	△	△	△	△	×	×	◎	◎
	(2)基本動作	座位の保持	—	—	—	△	△	△	△	×	×	◎	◎
	(2)基本動作	座位での乗り移り	×	×	△	△	×	△	△	×	×	◎	◎
	(2)基本動作	立位の保持	×	×	—	×	×	△	△	×	×	◎	◎
	(3)排泄の状況	尿失禁	△	△	△	△	△	△	△	×	×	—	—
	(3)排泄の状況	便失禁	△	△	△	—	△	△	△	×	×	—	—
	(3)排泄の状況	パルーンカテーテルの使用	△	△	△	△	△	△	△	×	×	△	△
	(4)食事の状況	食事の回数	—	—	—	—	—	◎	◎	—	—	—	—
	(4)食事の状況	食事量の問題	—	—	△	—	—	—	△	—	×	—	—
(5)視力の状況		△	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×	

表内の記号について

◎ 完全一致

○ アセスメント様式には無いが、事業所が持つ情報

△ 部分一致(紐付け可)

× 部分一致(紐付け不可)

— 該当項目なし

／ 該当しない

(4). 介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業

B. アセスメント様式等の互換性調査(利用者調査) (2)ADLの状況

【ADLの状況 更衣(上衣)】

○MDS方式・MDS-HC方式においてADL自立度(上半身の更衣)が「自立」の場合、データ項目ver.2のADLの状況・更衣(上衣)を「自分でやっている」と回答した割合は94%であった。「準備のみ」では82%。「観察」では76%であった。

○「部分的な援助」ではデータ項目ver.2のADLの状況・更衣(上衣)を「自分でやっていない」と回答した割合が66%であった。「広範な援助」では86%、「最大の援助」では98%、「全面依存」では100%であった。

※利用者票 問2 (1)ADLの状況 更衣(上衣)とMDS方式・MDS-HC方式のADL自立度(上半身の更衣)のクロス集計

図表 5 【利用者票】ADL自立度(上半身の更衣)(MDS方式・MDS-HC方式) × ADLの状況・更衣(上衣) (データ項目ver.2)

MDS方式・MDS-HC方式		データ項目ver.2			合計
		自分でやっている	自分でやっていない	無回答	
ADL自立度 上半身の更衣	0 自立:手助け, 準備, 観察は不要. 1~2回のみ	61 94%	3 5%	1 2%	65 100%
	1 準備のみ:物や用具を利用者の手の届く範囲に置くことが3回以上	28 82%	6 18%	0 0%	34 100%
	2 観察:見守り, 励まし, 誘導が3回以上, あるいは, 1回以上の観察と身体援助1~2回との組み合わせ(観察と身体援助合わせて3回以上)	35 76%	11 24%	0 0%	46 100%
	3 部分的な援助:動作の大部分(50%以上)は自分でできる.四肢の動きを助けるなどの体重(身体)を支えない援助を3回以上.それ以上の援助1~2回との組み合わせ(身体援助が3回以上)。	21 33%	42 66%	1 2%	64 100%
	4 広範な援助:動作の大部分(50%以上)は自分でできるが, 以下の援助を3回以上.体重を支える援助(たとえば, 四肢や体幹の重みを支える)。ある動作要素, あるいはすべての動作について全面援助。	4 14%	25 86%	0 0%	29 100%
	5 最大の援助:動作の一部(50%未満)しか自分でできず, 以下の援助を3回以上.体重を支える援助(たとえば, 四肢や体幹の重みを支える)。ある動作要素, あるいはすべての動作について全面援助。	1 3%	39 98%	0 0%	40 100%
	6 全面依存:まる3日間すべての面で他者が全面援助した	0 0%	46 100%	0 0%	46 100%
	8 本動作は3日間の間に1回もなかった	0 0%	1 100%	0 0%	1 100%

※アセスメント様式の各選択肢別に割合の高い上位1つを橙色で表示している。

(4). 介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業

B. アセスメント様式等の互換性調査(利用者調査) (2)ADLの状況

【ADLの状況 更衣(上衣)】

○居宅サービス計画ガイドライン方式において「上衣の着脱」が「介助されていない」場合、データ項目ver.2で「自分で行っている」と回答した割合は93%、「見守り等」の場合、75%であった。「一部介助」、「全介助」の場合、「自分で行っていない」と回答した割合がそれぞれ59%、96%であった。

○包括的自立支援プログラム方式において「上衣の着脱」が「自立」の場合、データ項目ver.2で「自分で行っている」と回答した割合は81%、「見守り」の場合、75%であった。「一部介助」、「全介助」の場合、「自分で行っていない」と回答した割合がそれぞれ81%、99%であった。

※利用者票 問2(1)ADLの状況 更衣(上衣)と居宅サービス計画ガイドライン方式、包括的自立支援プログラム方式の上衣の着脱のクロス集計

図表6 【利用者票】上衣の着脱(居宅サービス計画ガイドライン方式)×ADLの状況・更衣(上衣)(データ項目ver.2)

居宅サービス 計画ガイドライン方式	データ項目ver.2	ADLの状況 更衣(上衣)			合計
		自分で行っている	自分で行っていない	無回答	
上衣の着脱	1 介助されていない	141 93%	7 5%	3 2%	151 100%
	2 見守り等	44 75%	14 24%	1 2%	59 100%
	3 一部介助	43 41%	62 59%	0 0%	105 100%
	4 全介助	2 4%	43 96%	0 0%	45 100%

※アセスメント様式の各選択肢別に割合の高い上位1つを橙色で表示している。

図表7 【利用者票】上衣の着脱(包括的自立支援プログラム方式)×ADLの状況・更衣(上衣)(データ項目ver.2)

包括的 自立支援プログラム方式	データ項目ver.2	ADLの状況 更衣(上衣)			合計
		自分で行っている	自分で行っていない	無回答	
上衣の着脱	1 自立	52 81%	12 19%	0 0%	64 100%
	2 見守り	43 75%	14 25%	0 0%	57 100%
	3 一部介助	41 18%	182 81%	2 1%	225 100%
	4 全介助	2 1%	293 99%	1 0%	296 100%

※アセスメント様式の各選択肢別に割合の高い上位1つを橙色で表示している。

（4）. 介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業

B. アセスメント様式等の互換性調査（利用者調査）（2）ADLの状況

【ADLの状況 更衣(上衣)】

○R4において整容・衣服が「レベル5」の場合、データ項目ver.2のADLの状況・更衣(上衣)を「自分でやっている」と回答した割合は92%であった。「レベル4」では79%。「レベル3」では53%であった。

○「レベル2」ではデータ項目ver.2のADLの状況・更衣(上衣)を「自分でやっていない」と回答した割合が70%であった。「レベル1」では97%であった。

※利用者票 問2(1)ADLの状況 更衣(上衣)とR4の整容・衣服のクロス集計

図表8 【利用者票】整容 衣服(R4) × ADLの状況・更衣(上衣) (データ項目ver.2)

R4		データ項目ver.2	ADLの状況 更衣(上衣)			合計
			自分でやっている	自分でやっていない	無回答	
整容_衣服	1 (レベル1) 上衣の片袖を通すことを自分でやっていない		1 3%	33 97%	0 0%	34 100%
	2 (レベル2) 更衣の際のボタンのかけはずしを自分でやっていないが、上衣の片袖を通すことは自分でやっている		15 30%	35 70%	0 0%	50 100%
	3 (レベル3) スポンやパンツの着脱を自分でやっていないが、更衣の際のボタンのかけはずしは自分でやっている		20 53%	18 47%	0 0%	38 100%
	4 (レベル4) 衣服を畳んだり整理することを自分でやっていないが、ズボンやパンツの着脱は自分でやっている		30 79%	8 21%	0 0%	38 100%
	5 (レベル5) 衣服を畳んだり整理することを自分でやっている		22 92%	2 8%	0 0%	24 100%

※アセスメント様式の各選択肢別に割合の高い上位1つを橙色で表示している。

論点

- アセスメント情報の収集についてどのように考えるか。
- 介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業の研究結果の活用についてどのように考えるか。